

大学生女子の孤独感に関する臨床心理学的研究

－ 父娘間・母娘間における「甘え体験」「甘やかされ体験」の観点から －

桑 原 帆菜未

問題・目的・仮説

孤独感は、青年期の非行や自殺、無気力・無関心や同一性の混乱と関係があると言われている(原田,1999)。落合(1983)は、青年期の孤独感は人間同士共感しあえると感じ(考え)ているか否かの対自的次元(LSO-U,共感性)、人間の個別性に気付いているか否かの対他次元(LSO-E,個別性)の2つの次元によって構成されていると説明している。孤独感を感じる要因の一つとして、親子間での「甘え体験」「甘やかされ体験」が考えられている。大塚(2012)は、「甘え」を青年期の母子関係を考えるうえでも非常に重要な概念であるとし、男子・女子大学生、大学院生を対象に「甘え体験」と「甘やかされ体験」が青年期のもつ孤独感とどのような関連があるのかを検討することを目的とした研究を行った。その結果、「甘え体験」は男女ともに孤独感に負の影響を及ぼすことが示唆され、「甘やかされ体験」は特に男子において青年期の孤独感に正の影響を及ぼしていることが示唆された。しかしながら、この研究では母息子間という異性親との検討はされているが、女子において異性である父親との関係(父娘関係)の中では検討されていない。また、「甘え体験」と「甘やかされ体験」はともに対人的な相互性があることから、相互に影響している可能性もある。以上のことから、本研究では、大学生の孤独感と、父娘間・母娘間における「甘え体験」「甘やかされ体験」との関連性について分析し、考察を行う。

仮説1 父娘間における「甘え体験」は孤独感の規定要因である共感性に正の影響を、孤独感の規定要因である個別性に負の影響を及ぼし、「甘やかされ体験」は共感性に負の影響を、個別性に正の影響を及ぼすのではないかと。また、母娘間における「甘え体験」は共感性に正の影響を及ぼし、個別性に負の影響を及ぼし、「甘やかされ体験」は共感性に正の影響を、個別性に負の影響を及ぼすのではないかと。

仮説2 父娘間における「甘え体験」「甘やかさ

れ体験」では、共感性は「甘え体験」が強く「甘やかされ体験」が弱いとき高くなり、個別性は「甘え体験」が低く「甘やかされ体験」が強いとき高くなるのではないかと。また、母娘間における「甘え体験」「甘やかされ体験」では、共感性は「甘え体験」「甘やかされ体験」がともに強いとき高くなり、個別性は「甘え体験」「甘やかされ体験」ともに弱いとき高くなるのではないかと。

方法

研究協力者 A大学、B大学に在籍する大学生女子。回収したデータは174名、有効回答数151名分のデータを分析対象とした。

調査日時 2015年11月初旬～中旬

手続き 担当教員の許可を得て、講義前に調査の目的や個人情報の取り扱いに関する説明、および回答は任意であることなどを説明し、質問紙を配布した。

質問紙構成 ①フェイス項目 研究協力者の年齢について回答を求めた。また、研究協力者の養育者について、父親(母親)かその他の大人の男性(女性)のどちらか選択してもらい、その他の場合は間柄も記入してもらった。②孤独感の類型判別尺度(LSO)16項目。③「甘え体験」尺度17項目。④「甘やかされ体験」尺度14項目。⑤対人依存欲求尺度20項目。この尺度は「甘え体験」尺度、「甘やかされ体験」尺度の妥当性を図るために使用した。

結果と考察

基礎分析 父娘間・母娘間それぞれの「甘え体験」尺度、「甘やかされ体験」尺度に主成分分析を実施し、1次元性の確認を行った。父親「甘え体験($\alpha = .941$)」、父親「甘やかされ体験($\alpha = .903$)」、母親「甘え体験($\alpha = .942$)」、母親「甘やかされ体験($\alpha = .925$)」。また、父娘間・母娘間それぞれの「甘え体験」尺度、「甘やかされ体験」尺度と対人依存欲求尺度との相関係数を算出し、一応の妥当性が確認された。LSOは落合(1983)に従った。「LSO-U($\alpha = .893$)」、「LSO-E($\alpha = .637$)」。

仮説1の検証 相関を求めた。父娘間・母娘間ともに「甘え体験」は共感性にやや正の影響(それぞれ, $r=.37, p<.01$; $r=.35, p<.01$), 個別性にやや負の影響(それぞれ, $r=-.25, p<.01$; $r=-.22, p<.01$)を与え, 父娘間・母娘間ともに「甘やかされ体験」は共感性にやや負の影響($r=-.20, p<.05$; $r=-.35, p<.01$), 個別性に関連が見られないという結果が示された。

従って, 仮説1は父娘間・母娘間の「甘え体験」共感性, 父娘間の「甘やかされ体験」共感性のみ一応の支持がされた。「甘え体験」は相手から応じられて初めて体験として成立するものであり, 対人的な相互性がある(大塚, 2012)ことから, 「甘え体験」によって他者との相互性を感じることで, 共感性を得られ, また, 「甘え体験」によって依存欲求が芽生え, 自他との区別の認識がやや出来にくくなり, 個別性に気付きにくくなるのではないかと考えられた。「甘やかされ体験」は, 大塚(2012)の先行研究により, 一見母子間で相互交流がある様に見える点で「甘え体験」と類似しているが, 青年自身にとっては内的に異なる体験であり, 心理的にも異なる影響をもつことが認められている。また, 自分の求める「甘え体験」はできず, 対人的な付き合いのうえにおいても, 自分が満たされた感じがなく孤独感をもつと考えられる(大塚, 2012)ことから, 「甘やかされ体験」によって他者と分かりあえないと感じることで, 共感性が低くなるのではないかと考えられた。

分類 父娘間・母娘間それぞれの「甘え体験」「甘やかされ体験」に, ward法によるクラスタ分析を行い, 3つのクラスタを得た。その結果, 父娘間における「甘え体験」「甘やかされ体験」から「甘え高・甘やかされ低」, 「甘やかされ低」群, 「甘えやや高・甘やかされ高」群の3つのクラスタが得られた。母娘間における「甘え体験」「甘やかされ体験」から「甘え低・甘やかされ高」, 「甘え高・甘やかされ高」, 「甘え高・甘やかされ低」群の3つのクラスタが得られた。

仮説2の検証 父娘間・母娘間それぞれのクラスタ3群を独立変数, 「LSO-U」「LSO-E」を従属変数とした一要因分散分析を行った。その結果, 父娘間では, 共感性において, 3群すべてが共感性高群にあてはまり, その中でも「甘え高・甘やかされ低」群が最も高かったことから, 父娘間において「甘やかされ体験」よりも「甘え体験」の方を

強く認知している場合, 共感性は高くなるということが示唆された。個別性において, 3群すべてが個別性低群にあてはまり, その中でも「甘え高・甘やかされ低」群が最も低かったことから, 父娘間において「甘やかされ体験」よりも「甘え体験」の方を強く認知している場合, 個別性は低くなるということが示唆された。母娘間では, 共感性において, 3群すべてが共感性高群にあてはまり, その中でも「甘え高・甘やかされ低」群が最も高かったことから, 母娘間において「甘やかされ体験」よりも「甘え体験」の方が強く認知されている場合, 共感性は高くなるということが示唆された。個別性において, 有意差は見られなかった。従って, 仮説2は父娘間の共感性に関してのみ支持された。「甘え体験」「甘やかされ体験」ともに対人的な相互性があるが, 「甘え体験」は養育者に対して甘えてもいいという安心感を抱いており, 一方で「甘やかされ体験」は養育者に対して侵入的であると感じていることから, 「甘やかされ体験」よりも「甘え体験」の方が共感性は高くなると考えられ, 「甘やかされ体験」よりも「甘え体験」をより認知している人は, 現実に関わり合っている人と理解・共感できると感じやすくなると考えられる。また, 甘え経験は自己を受け入れてもらえる経験であることから, 「甘え体験」は自分と他者を分化するものではないと考えられ, 「甘やかされ体験」は養育者に対して侵入的であると認知するものであることから, 自分と養育者を分化すると考えられるが, 本研究において「甘やかされ体験」をより強く認知することによって個別性が高まるという結果は見られていないことから, 「甘やかされ体験」と個別性の間に関連性を見ることは難しいことが見出された。

臨床心理学的意義

本研究の結果より, 非社会性や不安などの不適応と関連がある孤独感の背景の一要因の一つとして, 親娘間の行為である「甘え体験」「甘やかされ体験」がある可能性が示唆された。「甘え体験」と「甘やかされ体験」は, 外見上は区別のつきにくい親子間の行為である(大塚, 2012)が, それぞれが孤独感に別の影響を与えていることが考えられることから, 孤独感を抱える大学生女子のクライアントの見立て, その後の支援に役立てることが出来るのではないだろうかと考えられる。